

いちよし・グローバル好配当戦略ファンド
(年6回決算型)愛称: **ミズナラ**

(追加型投信/内外/資産複合)

設定来の運用状況について

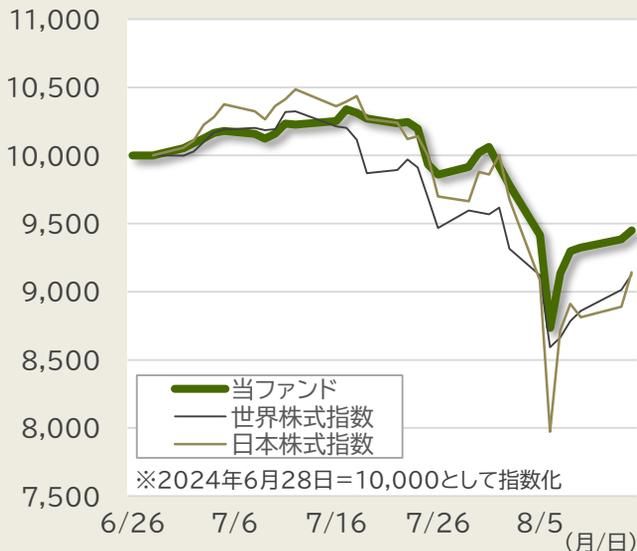
設定来の当ファンドのパフォーマンスについて

当ファンドの設定日(2024年6月26日)から7月中旬にかけては、内外株式市場は堅調に推移し、為替相場では円安が進行しました。7月中旬以降は、これまで上昇していた半導体関連株が米国の対中半導体規制の報道を受け下落したことや、7月の一部の米国経済指標が事前予想を下回り、米国の景気後退懸念が高まったことなどから、8月月初にかけて株式市場は世界的に下落しました。また、日本株式市場においても、米国の景気後退への懸念が高まったことに加え、日本銀行が利上げを決定し、植田総裁が追加利上げに前向きな姿勢を示したことなどを受け、8月2日から5日にかけて円高と株安が急速に進みました。

こうした中、当ファンドの基準価額は設定来で5.5%下落したものの、世界不動産関連の下落が相対的に軽微であったことなどから、世界株式指数(MSCI AC ワールド インデックス)や日本株式指数(TOPIX)の下落率と比較して小幅にとどまりました。

当ファンドと世界株式指数および日本株式指数の推移

期間: 2024年6月26日(設定日)(各株式指数は28日*)
~2024年8月14日、日次



*世界株式指数および日本株式指数の推移は、全ての投資信託証券の組入が完了した6月28日を起点としています。

当ファンドと組入投資信託証券の騰落率

期間: 2024年6月28日*~2024年8月14日

	騰落率
当ファンド	-5.5%
世界不動産関連	-2.4%
世界株式	-7.8%
日本株式	-8.6%

(ご参考)市場指数と為替レートの騰落率
期間: 2024年6月28日*~2024年8月14日

	騰落率
世界株式指数	-8.7%
日本株式指数	-8.6%
為替(米ドル・円)	-8.7%

*上記の騰落率は、全ての投資信託証券の組入が完了した6月28日を基準として算出しています。

※各組入投資信託証券および世界株式指数、日本株式指数のデータは、当ファンドの基準価額に対応する日に調整しています。

※世界株式指数: MSCI AC ワールド インデックス(税引前、配当込み、円換算)、日本株式指数: TOPIX(配当込み)
(当ファンドのベンチマークではありません)

※世界不動産関連: 「ウエリントン・グローバル・プロパティ・ファンド (JPY Sクラス-四半期配当 ヘッジなし)」
世界株式: 「ウエリントン・グローバル・クオリティ・バリュー・ファンド (JPY Sクラス-四半期配当 ヘッジなし)」
日本株式: 「いちよし日本好配当株ファンド(適格機関投資家専用)」

出所: LSEG

※ファンドの騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。※分配実績が無い場合、税引前分配金再投資基準価額は表示しておりません。
※上記は過去の実績であり、将来の動向を示唆・保証するものではありません。

注目ポイント① ～投資家の業種選好に変化～

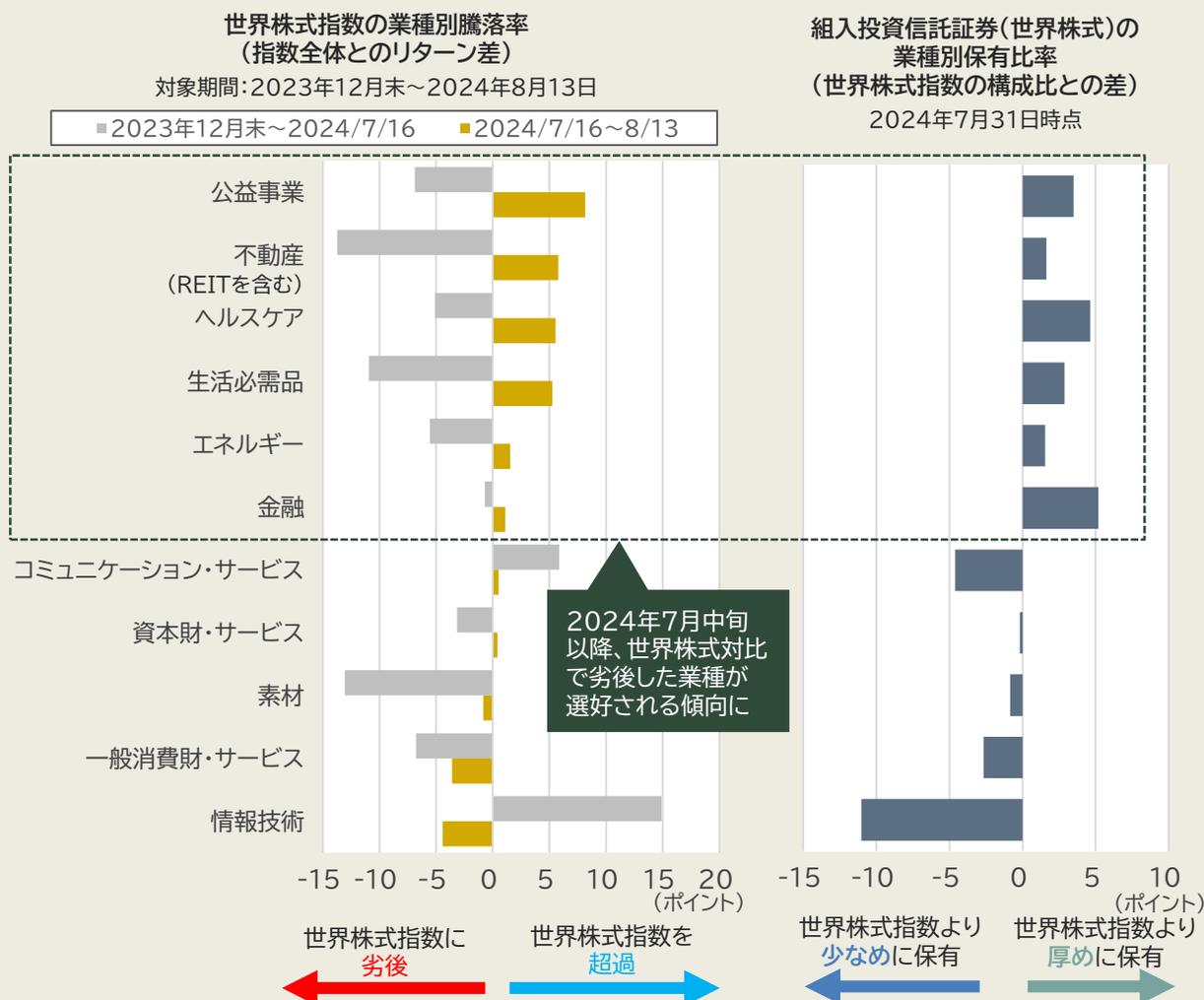
年初来の世界株式指数(MSCI AC ワールド インデックス)の業種別パフォーマンスを、7月16日(最高値更新日)を基準として前後を比較すると、投資家の業種選好に変化が見られます。

2023年末から2024年7月16日まで株式市場の上昇をけん引してきたのは、ハイテク関連の銘柄が多く含まれる情報技術やコミュニケーション・サービスでした。

しかし、7月16日から直近(8月13日)までは、これまで劣後してきた不動産や、業績が景気動向に左右されにくい傾向にある公益事業、ヘルスケア、生活必需品などの業種が世界株式指数を上回るパフォーマンスとなりました。

こうしたなか、2024年7月末時点の組入投資信託証券(世界株式*)のポートフォリオでは、金融、ヘルスケア、公益事業などの業種を市場指数対比で厚めに保有する一方、情報技術やコミュニケーション・サービスなどは少なめに保有しています。足もとの業種選好の変化が持続的なものとなった場合、当ファンドのパフォーマンスにとってプラスに作用すると考えています。

*ウエリントン・グローバル・クオリティ・バリュー・ファンド(JPY Sクラスー四半期配当 ヘッジなし)



※組入投資信託証券(世界株式):ウエリントン・グローバル・クオリティ・バリュー・ファンド(JPY Sクラスー四半期配当 ヘッジなし)
 ※世界株式指数:MSCI AC ワールド インデックス(米ドルベース)(当ファンドのベンチマークではありません)
 ※業種はGICS(世界産業分類基準)セクター分類です。

注目ポイント② ～日米の金融政策～

日本では、7月31日の金融政策決定会合で利上げを決定したものの、8月初の市場の急変を受けて、内田日銀副総裁は8月7日、今後の追加利上げ余地があるとの認識を示しつつも、「金融資本市場が不安定な状況で利上げをすることはない」と発言したことが、国内株式市場の安堵感につながりました。

国内株式市場は米国の景気動向や為替相場の動向を巡って当面ボラティリティの高い相場展開が見込まれます。ただし、現時点で国内株式市場を取り巻くファンダメンタルズに大きな変動はないとみられ、内外投資家のセンチメントは徐々に落ち着きを取り戻すものと判断しています。

米国では、足もとでインフレ率の鈍化傾向が続き、景気や雇用が弱含む中、FRB(連邦準備制度理事会)が9月のFOMC(連邦公開市場委員会)に利下げを実施するとの見方が高まっています。金融市場では、FOMCメンバーの想定よりも急速な利下げが予想されており、海外株式やREITにとっての支援要因になると期待されます。

内田日銀副総裁の発言(金融経済懇談会、8月7日)

- ✓ 当面、現在の水準で金融緩和をしっかりと続ける必要があると考えている。
- ✓ 市場の変動の結果として、見通しやその上下のリスク、見通しの確度が変われば、金利のパスは変わってくる。
- ✓ 欧米の利上げプロセスとは異なり、わが国の場合、一定のペースで利上げをしないとイケない状況ではない。
- ✓ 金融資本市場が不安定な状況で、利上げをすることはない。

出所: 日本銀行「最近の金融経済情勢と金融政策運営——函館市金融経済懇談会における挨拶——」(2024年8月7日)より
東京海上アセットマネジメント作成

FOMCメンバーによる政策金利予想の中央値
2024年3月発表値と6月発表値の比較



米FF金利先物市場が織り込む
利下げ回数予想



※利下げ回数は、1回当たりの利下げ幅を0.25%とした場合の相当回数。
※直近値は、FF金利誘導目標レンジの中間値(5.375%)

出所: FRB、ブルームバーグ

※上記は過去の実績および将来の予想であり、当ファンドの将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

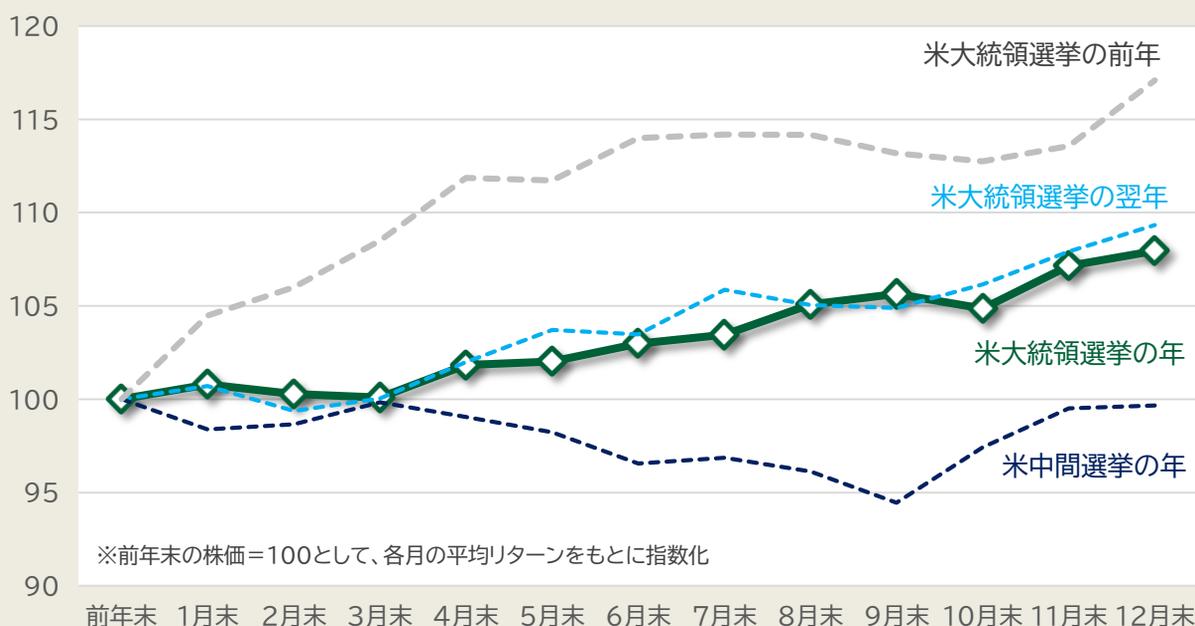
(ご参考)米大統領選挙実施年の株価動向

11月には米大統領選挙が実施されます。過去60年における米大統領選挙と株価の関係をみると、選挙の前年が株価の平均上昇率が最も高い結果となっているものの、選挙実施年やその翌年は底堅く推移する傾向にありました。また、選挙実施年の10月末(選挙直前)～年末の上昇率は、他の年と比較して大きな差がない結果となっています。

こうしたことから、米大統領選挙の結果だけでなく、金融政策や企業業績、新政権の政策(規制強化や規制緩和)による各業種への影響などを注視する必要があると考えます。

米大統領選挙を基準とした米国株価指数の推移(平均値)

対象期間:1964年~2023年



	前年末~10月末	10月末~12月末	年間
米大統領選挙の年	4.8%	2.7%	8.0%
共和党が勝利した年	6.4%	2.2%	8.9%
民主党が勝利した年	3.1%	3.2%	6.9%
米大統領選挙の翌年	6.2%	2.7%	9.3%
米中間選挙の年	-2.6%	2.1%	-0.3%
米大統領選挙の前年	12.8%	3.8%	17.1%

※米国株価指数:S&P500指数(米ドルベース、配当を考慮しないプライスリターンベース)

出所:LSEG

※上記は過去の実績であり、当ファンドの将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

ファンドの主なリスク

※詳細は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

基準価額の変動要因

- 投資する有価証券等の値動きにより基準価額は変動します。したがって、**投資元本は保証されているものではなく、投資元本を割り込むことがあります。**
- **運用による損益は、全て投資者に帰属します。**
- 投資信託は**預貯金や保険と異なります。**
- ファンドへの投資には主に以下のリスクが想定されます。

価格変動リスク	<p>株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績・財務状況、市場の需給等を反映して変動します。株価は、短期的または長期的に大きく下落することがあります(発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります)。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。</p> <p>REITの価格は、REITが保有する不動産の評価の下落、不動産市況に対する見通しや需給等、さまざまな要因を反映して変動します。組入REITの価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。</p>
為替変動リスク	<p>外貨建資産の円換算価値は、資産自体の価格変動の他、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。為替レートは、各国・地域の金利動向、政治・経済情勢、為替市場の需給その他の要因により大幅に変動することがあります。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向にすすんだ場合には、基準価額が下落する要因となります。</p>
金利変動リスク	<p>REITは、金利が上昇する場合、他の有価証券の利回り等との比較から売却され、価格が下落することがあります。また金利の上昇は、金融機関等から借入れを行っているREITの場合、その返済負担が大きくなり、REITの価格下落や配当金の減少につながる場合があります。したがって、金利の上昇に伴い基準価額が下落することがあります。</p>
信用リスク	<p>REITは、信用状況(経営や財務状況等)が悪化した場合、倒産等の状況に陥り投資した資金が回収できなくなる場合があります。また、こうした状況に陥ると予想される場合、当該REITの価格が下落する場合があります。したがって、信用状況の悪化に伴い基準価額が下落することがあります。</p>
カントリーリスク	<p>投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想以上に下落したり、投資方針に沿った運用が困難となることがあります。</p> <p>また、投資対象国・地域には新興国が含まれています。新興国を取巻く社会的・経済的環境は不透明な場合もあり、金融危機、デフォルト(債務不履行)、重大な政策変更や様々な規制の新たな導入等による投資環境の変化が、先進国への投資に比べてより大きなリスク要因となることがあります。</p> <p>さらに、新興国においては市場規模が小さく流動性が低い場合があり、そのため組入資産の価格変動が大きくなる場合があります。</p>
流動性リスク	<p>受益者から解約申込があった場合、組入資産を売却することで解約資金の手当てを行うことがあります。その際、組入資産の市場における流動性が低いときには直前の市場価格よりも大幅に安い価格で売却せざるを得ないことがあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。</p>
法制度等の変更リスク	<p>REITおよび不動産等に関する法制度(税制・建築規制等)が変更となった場合、REITの価格下落や配当金の減少につながる場合があります。したがって、法制度の変更に伴い基準価額が下落することがあります。</p>

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

〈収益分配金に関する留意事項〉

投資信託の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全額が、実質的には元本の一部払い戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

お申込みメモ

※詳細は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※お申込みメモの内容は、作成日時点のものであり、変更になることがありますのでご注意ください。

購入単位	販売会社が定める単位。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	当初申込期間：1口当たり1円 継続申込期間：購入申込受付日の翌々営業日の基準価額
換金単位	販売会社が定める単位。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して、7営業日目からお支払いします。
申込締切時間	継続申込期間では、原則として午後3時までに、販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。 ※2024年11月5日以降は、原則として午後3時30分までに、販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とする予定です。なお、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金 申込受付の中止 および取消し	取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受け付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消すことがあります。
購入・換金申込不可日	以下に該当する日には、購入・換金のお申込みができません。 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ニューヨークの銀行の休業日 ・イースターマンデー ・5月1日 ・クリスマス(12月25日もしくはその振替休日)の直前および直後の営業日
信託期間	無期限(2024年6月26日設定)
繰上償還	主要投資対象とする投資信託証券が存続しないこととなる場合は、繰上償還となります。 以下に該当する場合等には、繰上償還することがあります。 ・受益権の総口数が30億口を下回るようになったとき ・ファンドを償還することが受益者のため有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
決算日	1月、3月、5月、7月、9月および11月の各10日(休業日の場合は翌営業日) 初回決算日(第1計算期末)は2024年9月10日
収益分配	年6回の決算時に収益分配方針に基づき、収益分配を行います。 ※分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について、保証するものではありません。 ※販売会社との契約によっては再投資が可能です。 ※第1計算期末(2024年9月10日)には、収益の分配を行いません。
課税関係	収益分配時の普通分配金、換金時および償還時の差益に対して課税されます。 課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は、税法上、一定の条件を満たした場合に少額投資非課税制度「NISA」の適用対象となります。ファンドは、「NISA」の「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。 ※上記は、2024年2月末現在のものですので、税法が改正された場合等には、内容等が変更される場合があります。

ファンドの費用

※詳細は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

投資者が直接的に負担する費用(購入時・換金時)

購入時手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用(保有時)

ファンドの純資産総額に信託報酬率をかけた額(基本報酬)に(実績報酬)を加えた額とします。(基本報酬)は日々、(実績報酬)は毎営業日に計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、(基本報酬)および(実績報酬)は、毎計算期末または信託終了の時にファンドから支払われます。

〈基本報酬〉

信託報酬率	支払先	配分(税抜)	役務の内容
年率0.616% (税抜0.56%)	委託会社	年率 0.29%	委託した資金の運用、基準価額の計算、目論見書作成等の対価
	販売会社	年率 0.25%	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
	受託会社	年率 0.02%	運用財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行の対価

〈実績報酬〉

基本報酬に加え、前営業日の基準価額がハイ・ウォーター・マークを上回った場合に実績報酬がかかります。実績報酬は販売会社*に支払われます。

*役務の内容については、〈基本報酬〉の欄をご参照ください。

実績報酬 = (前営業日の基準価額 - ハイ・ウォーター・マーク) × 5.5% (税抜5%)

※実績報酬の詳細については、投資信託説明書(交付目論見書)等をご覧ください。

ファンドの信託報酬のほかに、投資対象とする投資信託証券に関しても信託報酬等がかかります。

〈投資対象とする投資信託証券の信託報酬率〉

ファンド	信託報酬率※
グローバル・プロパティ・ファンド	年率0.27%(注)
グローバル・クオリティ・バリュー・ファンド	年率0.165%(注)
日本好配当株ファンド	年率0.15125% (税抜0.1375%)

※ファンドが投資対象とする投資信託証券の投資比率に基づき算出したものです。

(注)その他、管理費用等(0.25%以内)を投資比率に基づき算出したものが、それぞれかかります。

実質的な負担※	年率1.20225%程度(税込) + 〈実績報酬〉
---------	---------------------------

※ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬率を加味して、投資者の皆様が実質的に負担する信託報酬率について算出したものです。なお、実質的な負担額に、投資対象とする投資信託証券の管理費用等は含まれていません。

その他の費用・手数料

以下の費用・手数料等がファンドから支払われます。

- ・監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
ファンドの純資産総額に年率0.011%(税込)をかけた額(上限年99万円)を日々計上し、毎計算期末または信託終了の時にファンドから支払われます。
- ・組入価証券の売買の際に発生する売買委託手数料
- ・資産を外国で保管する場合にかかる費用
- ・信託事務等にかかる諸費用
- ・投資対象とする投資信託証券における諸費用等

※監査にかかる費用を除く上記の費用・手数料等は、取引等により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※上記に記載する手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、事前に表示することができません。

※ファンドが実質的に投資するREITについては、市場の需給等により価格形成されるため、REITの費用は表示しておりません。

一般的な留意事項

- 当資料は、東京海上アセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。お申込みに当たっては必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書(交付目論見書)は販売会社までご請求ください。
- 当資料の内容は作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に掲載された図表等の内容は、将来の運用成果や市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある証券等(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。
- 投資信託は金融機関の預金とは異なり元本が保証されているものではありません。委託会社の運用指図によって信託財産に生じた利益および損失は、全て投資家に帰属します。
- 投資信託は、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金および保険契約ではありません。また、預金保険や保険契約者保護機構の対象ではありません。
- 登録金融機関から購入した投資信託は投資者保護基金の補償対象ではありません。

■当資料で使用した指数について

TOPIXの指数値およびTOPIXにかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下、JPXといいます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用等TOPIXに関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXにかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。ファンドは、JPXにより提供、保証または販売されるものではなく、ファンドの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

当資料で使用した各MSCI指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI社に帰属します。また、MSCI社は指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI社の許諾なしにインデックスの一部または全部を複製、頒布、使用等することは禁じられています。MSCI社は当ファンドとは関係なく、当ファンドから生じるいかなる責任も負いません。

S&P 500®はS&P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社(「SPDJ」)の商品であり、これの使用ライセンスが東京海上アセットマネジメント株式会社に付与されています。S&P®, S&P 500®, US 500, The 500, iBoxx®, iTraxx®およびCDX®は、S&P Global, Inc.またはその関連会社(「S&P」)の商標です。Dow Jones®は、Dow Jones Trademark Holdings LLC(「Dow Jones」)の登録商標です。これらの商標の使用ライセンスはSPDJIに付与されており、東京海上アセットマネジメント株式会社により一定の目的でサブライセンスされています。当ファンドは、SPDJI、Dow Jones、S&P、それらの各関連会社によって後援、推奨、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、S&P 500®のいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。

■ お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は



商号等: いちよし証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第24号

加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

■ 設定・運用は

東京海上アセットマネジメント株式会社

商号等: 東京海上アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第361号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

【お問い合わせ先】東京海上アセットマネジメント株式会社

○ホームページアドレス: <https://www.tokiomarineam.co.jp/>

○電話番号: 0120-712-016 (受付時間: 営業日の9:00~17:00)